



こころざし

【学校教育目標】
夢の実現に向かって たくましく
挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 18 号

令和 7 年 1 月 31 日発行

文責 校長 多久島 一仁

給食について考えました

1 月 20 日（月）～ 24 日（金）は給食週間でした。22 日（水）は 4 時間目を使って、給食について考えました。最初に養護教諭先生からお話がありました。明治 22 年の山形県の給食を紹介されましたが、この頃はおにぎりと塩シャケとおつけものだけでした。また、戦争中は給食が作れないこともあったようです。



そういえば、加唐小中学校の完全給食が始まったのはいつからか分かりますか？実は完全給食になったのは、平成 6 年からです。それまでは、ごはんや牛乳は学校で出されていましたが、おかずは家から持参していたそうです。そう考えると今の完全給食というのはありがたいものです。

その後、調理員さんにお礼の手紙を書きました。お礼の手紙には、「いつもおいしい給食をつくってくれてありがとうございます。食べ終わるのがおそくなってもしょつきをあらってくれますね。」「毎日とてもおいしい給食を作ってくれてありがとうございます。ぼくは唐あげとシチュー、アジナゲツが大好きです。これからもおいしい給食を作ってください。おかわりをたくさんしていっぱい食べたいです。」「私はみなさんが作ってくれる給食が大好きです。」「昼に給食を食べるときはおいしくていつもたくさんおかわりをしています。授業おわりに調理室の前を通るとおいしいにおいがして、よけいお腹が減ります。」といったことが書いてありました。

私たちが生きるために捧げてくれた命や農家の方、配送してくださった方、調理員さんたちに日々感謝しながら給食をいただきたいと思います。

60年前の加唐島・松島について話しました。

1月29日（水）の集会で、約60年前の加唐島について、私から話をしました。以前、加唐小中学校にお勤めだった先生が「文芸誌ふたり」を発行されていたのですが、その中で触れられていた加唐島や松島のことについて話しました。

60年前の加唐島は夜になると、電気が2時間で消えていたそうで、消えた後は、当然、テレビも見られず、冷蔵庫もなく、電気の照明もなかったことになります。ごはんを食べるのもたきぎで炊いていたそうです。

今は一人1台端末ということで、全児童生徒にタブレットが配られ、インターネットへの接続ができ、電子黒板では動画を見ることも可能ですが、当時は授業でテレビを見せるために、アンテナの向きを変えるために先生が2階の屋根に上っていたそうです。風が強い日などはかなりの危険業務だったと思います。

今ではなくなった学校行事としては、2か月に一度、先生たちが料理やお風呂で使うためのたきぎを全校生徒で集めるというのがありました。先生たちは生徒の働きなくしては生きていけなかったのです。

かから丸も今とは違っていました。海が荒れたときは、波が窓のすきまから船室に入り込み、床のごさを濡らしていたそうです。「海が荒れた時のかから丸は最高のアトラクションだから。」

（昨年度の文化発表会の漫才から）などと言っていられないと思いました。

また、昭和37年は相当海が荒れた年だったようで、12月30

日から翌1月7日までかから丸は動かなかったそうです。こんなに長期間船が出ないなんて、食料や日用品などは大丈夫だったのか、せっかくの冬休みにお出かけもできず、辛かっただろうな、などと考えました。

海と言えば、松島の方が病気になり、診療所の先生に夜中に往診を依頼したけれど、強風で港に船が着けられなかったため、北側の磯から崖を登って患者の家に向かったこともあったそうで、映画のような場面だと思いました。

これまで、いろんな方々がご苦労をされながら加唐島・松島で生活されてきたのだなあと、改めて先人の方々を尊敬するとともに、感謝したいと思いました。



